

## 四川大地震十周年ワークショップ(四川大学)と第8回光華論壇(Kwang-Hua Forum) (同済大学)に参加しました(2018/12/12-16)

テーマ：耐震工学

場所：四川大学及び同済大学（中華人民共和国 四川・上海）

2018年12月12日に四川大学において四川大地震十周年ワークショップが開催されました。中国国内はもちろん米国や日本からも研究者や実務家が多数参加し、災害科学国際研究所からは災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野の五十子幸樹 教授が、長周期構造物の高耐震化に有効な複素剛性の理論と実装について最新の研究成果を発表しました。テクニカルツアーでは、都江堰を訪問し、四川大地震で被災した後耐震補強された小学校を訪問・見学しました。続いて、場所を上海・同済大学に移して、今回で8回目となる耐震工学を主テーマとした国際フォーラム（光華論壇）に参加し、招待講演を行いました。日本、中国、アメリカなどから耐震工学に関係する著名な研究者が集まった今回のフォーラムのまとめのフリーディスカッションでは、耐震工学の今後のあるべき方向性が議論され、既存の工学に基づく細分化された研究分野の垣根を越えて、また、さらに幅広い学問分野も巻き込みながら学際的な研究分野を創成していくことの必要性が指摘されました。このような方向性は、まさに災害研が目指している方向性であり、災害研が国際的に防災・減災に貢献していくことの重要性を改めて確認することとなりました。この他にも、技術者に対して新しい技術を教育していくことの重要性や、一般市民への防災教育の重要性なども指摘されました。



四川大学戴靠山(Dai, Kaoshan)教授のご挨拶



四川大地震で被災し耐震補強された小学校



第8回光華論壇での invited talk（五十子教授）の様子